大学職員情報化研究講習会～基礎講習コース～
平成 28 年 7 月 20 日(水) ～22 日(金)
研修報告

F１班　Charlie
テーマ「今の社会に必要な人材を輩出するための職員のあり方・教員・学生との関わり方」

1. 大学の役割

変化の多い今の社会において、学生には「コミュニケーション能力」「自発的に動くこと」「協働力」「必要な情報を絞ることができる能力」「幅広い視野」が求められている。そして、教育によりこのような能力を学生に身に付けさせることが、社会から大学に求められている。そのため、大学の役割として「今の社会に求められる人材を輩出すること」が大学の役割であると考えた。その役割を果たすために、大学は教育の質を保証しなければならない。その中でも、授業を選択する上で必ず見ることになる「シラバス」と新しい学習の形である「アクティブ・ラーニング」が教育の質に大きく関わると考えた。

現状

① シラバス
シラバスと授業内容が学生の想定と異なる場合がある。

② アクティブ・ラーニング
知識や理解が教員・職員・学生共々不十分である。

これらは教員の意識、取り組み方により充実度・理解度に差が出るものであり、学生の教育に影響を及ぼしてしまう。

テーマを選んだ理由

討議を進めていく中で、職員は単なる事務作業をするだけではなく、教員に積極的に働きかけていくことができるような力（職員力）が求められているという意見が挙げられた。「教員との交流・相互理解」「発想力・創造力・知識の向上」「職員も教育者目線で学生の対応をする」など、職員としてのあり方見直すことで学生により良い環境を与えられるのではないかと考え、テーマを「今の社会に必要な人材を輩出するための職員のあり方・教員・学生との関わり方」に設定した。

2. 問題点の深堀

シラバス、アクティブ・ラーニングの問題点をそれぞれ表にまとめた。

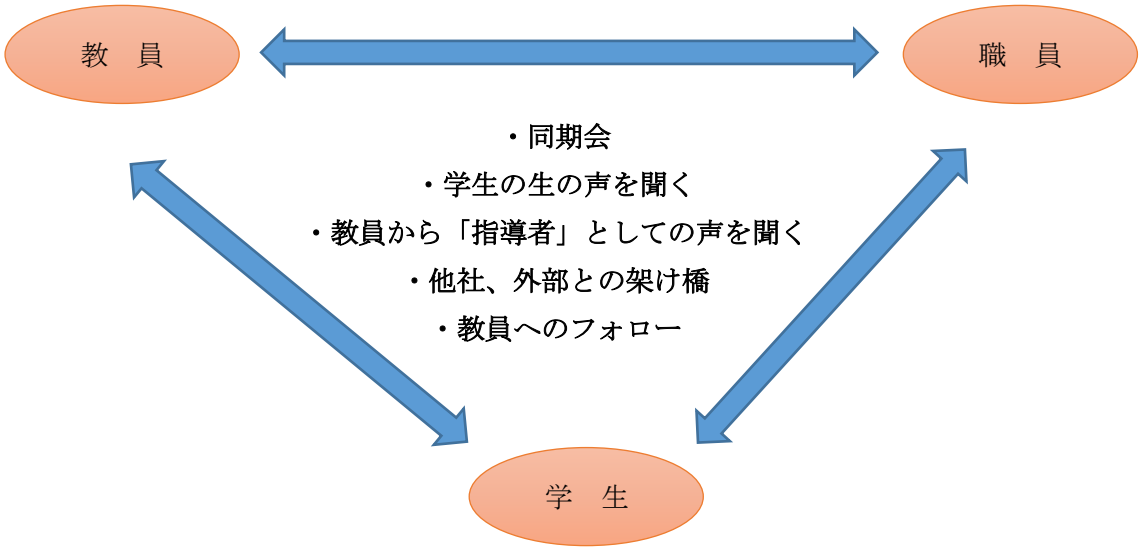
シラバス（理想） 学生にとって到達目標がわかりやすい 科目によってその記述の差がない。 →求められる人材になるための指針	アクティブ・ラーニング（理想） ・アクティブラーニングを通じて 社会が求める人材を育成するツール
シラバス（現状） ・教員によってシラバス内容に差 ・職員は教員が作り上げた内容を掲載するだけ（作業をするだけ）。	アクティブ・ラーニング（現状） ・知識・理解が、教員・職員・学生共々不十分。 ・補助金獲得のための手段化 →実施する本来の目的が理解されていない

3. 解決策の検討

職員のあり方を見直す上で、教員と学生との関わり方が重要であると考えた。三者は、以下の図のとおり三角関係にあり、職員は「指導者」としての教員の立場を尊重しつつ、職員も「指導者」としての視点を心掛けた上で学生のサポートや教員の支援を行う。

具体的には、まず教員との交流を深める「同期会」が挙げられる。同期会とは、同じ年度に採用になった教員・職員で交流を深める会であり、このような場を通じて情報交換を行い、相互理解を深める良いきっかけとなる。次に、教員から学生より直接的に学生の声を聴くことが出来ないことから、アンケートなどを通じて学生の意見を聞くこと、更にはその声を第三者の立場から分析・結果をフィードバックすることも有効である。また、職員が学生対応を行う上で、教員から「指導者」としての声を聞く必要がある。その為には、教員の授業をみる（現場を知る）ことや、教員の研究分野などを常に探求し続ける姿勢が求められる。

以上に述べたことから、職員が教員・学生と積極的に関わりを持つことで、良い関係を築き、良い環境をつくり、先に述べたような社会に求められている人材の輩出に繋がるのではないかと考える。



4．まとめ

今の社会に必要な人材を輩出するためには、大学の教育の質の保証が必要不可欠である。そのためには、職員のあり方、教員・学生との関わり方が大前提にあり、職員の役割を改めて認識し、教員へ積極的に働きかけを行うことが重要であると考える。これらをクリアしたとき、学生により良い環境を与え、「コミュニケーション能力」「自発的に動くこと」「協働力」「必要な情報を絞ることができる能力」などが身に付き、幅広い視野を持った学生、すなわち、社会に求められる人材と育っていくことであろう。

以　上